

池澤 義文

茨城支部 副支部長



ファンの皆さんには競輪を楽しんで頂き、それが復興支援にも繋がっているんだと思って頂いて、たくさん買ってもらえれば有り難いですね。

今回は「東日本大震災復興支援補助」を受けて被災地支援活動を行っている茨城県の「ひたちNPOセンター・with you」を訪問し、被災地の現状や活動内容についてお聞きしました。池澤副支部長にはお話を伺った感想や支部についてのことなど語って頂いています。

競輪ってこんなことやつているんだ!!

7月にデビューする101回生の小原唯志、吉澤純平、小林申太に注目を！
武田豊樹や長塚智広のように競輪界を牽引していく存在になってほしい。

—今回は東日本大震災にかかわる補助事業でしたか。

「多種多様なところに補助支援をしているのは知っていたんですけど、今回、震災復興を手助けする補助も作られたという事で。こちらのNPOさんでは地域の繋がりとといったものを調査されているという事で、こういうきめ細やかな活動がもっと広がって行けばいいな。また競輪は補助金の対応が早くして『有り難かった』というお話は嬉しく感じましたね。僕らも震災後すぐに街頭募金を行ったりして、微力ながら活動させてもらいました」

—震災後はずっと被災地支援としてレースの売り上げの一部が寄付されていますし、ファンの方にこそぜひ競輪界

の支援活動を知って頂ければ。

「ファンの皆さんには競輪を楽しんで頂き、尚かつそれがこういう復興支援にも繋がっているんだと思って頂いて、たくさん買ってもらえれば有り難いですね。そのためにももちろん僕らも「レースレース、責任を持って魅力あるレースをしていく必要がありますけど」

—震災で大きな被害を受け、まだ本場開催は再開していない取手競輪場ですが、今年の秋頃にはリニューアルオープンできる予定だそうですね。

「本場にたくさんの方々の努力でこの秋には再開して頂けるということ。大勢のお客様に来てもらえるように色々企画も考えていきたいですね。今は場外だけでですけど、ファンサービスとしてトーク

ショーや、生のレースの雰囲気を楽しんでもらおうと模擬レースなんかも実施しています」

—池澤選手から見た茨城支部とは？

「S級S班に武田豊樹、長塚智広と2人もいるというのは支部として嬉しいですし、誇りに思いますね。S級選手の人数も多いほうだと思いますし、あと長塚と十文字貴信というメダリストだけでなく、スケート出身の武田、牛山貴広、今井裕介と合わせてオリンピック選手が5人もいる県っていうのは他に類をみないかなと」

—今後の支部に望むことや期待することなどはありますか。

「まだA級で走っている若手も能力の高い選手が多いので、先輩選手に積極的に意見や情報を聞きに行く姿勢を持つて、もっと強くなってもらえれば。それと7月にデビューする101回生の小原唯志、吉澤純平、小林申太にはこれからの競輪界を牽引して行くくらいの器があると思うので、期待したいですね」

—ファンの方々にメッセージを。

「秋には取手競輪場が再開されますので、ファンの皆さんに納得して頂けるようなレースを心がけて選手皆一生懸命走ります。地元ファンの皆さん、また全国の皆さんも応援宜しくお願いいたします」